

防災学術連携体の設立趣旨

日本および世界の防災減災が喫緊の課題となっている。防災減災・災害復興の推進には、地震、津波、火山、活断層、地球観測、気象、地盤、耐震工学、耐風工学、機械制御工学、水工学、火災、防災計画、防災教育、救急医療、看護、環境衛生、都市計画、農山漁村計画、森林、海洋、地理、経済、情報、エネルギー、歴史、行政など、多くの研究分野が関係する。

一方、学問の世界は専門分化がすすみ、他の専門の活動に関心が薄れ、他分野を暗黙に信頼することが多くなり、重要な議論はそれぞれの分野内で行われがちである。加えて、全体を統合する力も弱くなっている。防災対策は、専門分野の枠をこえて、理工系だけでなく社会経済や医療も含めて総合的かつ持続的に取り組む必要がある。これらの研究は専門分野ごとに深めるだけでなく、異なる分野との情報共有や平常時の交流を活発化させる必要がある。さらに、研究成果が国や地域の防災・減災対策に反映されるように、行政組織との連携を取ることも求められている。

東日本大震災を契機に、日本学術会議の土木工学・建築学委員会が幹事役となり「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」を平成 23 年に設立し、30 学会による学際連携を進めてきた。この取組みをさらに発展させ、自然災害への防災減災・災害復興を対象に、より広い分野の学会の参画を得ながら、研究成果を災害軽減に役立てるため、「防災学術連携体」を創設する。

防災学術連携体は、日本学術会議と連携して平常時から学会間の連携を深める。大災害等の緊急事態時には、日本学術会議と共に、学会間の緊急の連絡網として機能するべく備える。平常時から政府・自治体・関係機関との連携を図り、防災に役立てると共に、緊急事態時に円滑な協力関係が結べるように備える。大災害への備えと対応は長期にわたるため、継続性のある組織となることをめざす。学会間の交流をすすめ、より総合的な視点をもって防災減災に取り組むことができる若手研究者を育てる。さらに、海外の学術団体・関係機関と国際交流をすすめ、世界の防災に寄与することをめざす。

日本学術会議では、平成 26 年 2 月に「緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針」を制定した。これに則り、平成 27 年 7 月に日本学術会議幹事会附置委員会として「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会」が設置された。この委員会は「自然環境・ハザード観測、防災・減災、救急・救助・救援、復旧・復興の研究に関わる日本学術会議協力学術研究団体を含めた国内外の学術団体や研究グループとの平常時、緊急事態時における連携の在り方について検討すること」を目的としている。防災学術連携体はこの委員会と密接に連携して活動する。

日本列島の地震活動が活発化し、南海トラフ地震や首都直下地震の発生が危惧されると共に火山噴火が増加している。地球温暖化の影響などで気候が変動し、大型化する台風、記録的な豪雨や豪雪、旱魃、竜巻など災害外力が高まっている。防災学術連携体は、高まる災害外力から国土と生命を護るために、学会をこえて議論し、学会間の連携を深め、防災減災・災害復興に関わる諸課題に取り組む決意である。

2016年6月3日

役員	幹事、監事	
代表幹事	日本学術会議連携会員	和田 章
代表幹事	土木学会会長	廣瀬 典昭
副代表幹事	日本学術会議会員	依田 照彦
副代表幹事	日本建築学会副会長	緑川 光正
幹事	日本学術会議連携会員	浅見 泰司
幹事	日本集団災害医学会代表理事	小井土 雄一
幹事	日本学術会議会員	小松 利光
幹事	日本自然災害学会会長	高橋 和雄
幹事	日本地球惑星科学連合理事	高橋 幸弘
幹事	日本学術会議連携会員	寶 馨
幹事	日本学術会議連携会員	田村 和夫
幹事	土木学会専務理事	塚田 幸広
幹事	地盤工学会会長	東畑 郁生
幹事	日本気象学会	筆保 弘徳
幹事	日本地震工学会会長	目黒 公郎
幹事	廃棄物資源循環学会理事	森口 祐一
幹事	日本計画行政学会理事	山本 佳世子
幹事	日本学術会議会員	米田 雅子
監事	日本学術会議会員	吉野 博

別表5 事務局長

事務局長	日本学術会議会員	米田雅子
事務局長	土木学会専務理事	塚田幸広

両事務局長は協力して防災学術連携体の事務局の運営を担うが、当分の間、米田雅子事務局長の主な所掌を全体調整・内外の連絡調整・ホームページ・経理等とし、塚田幸広事務局長の主な所掌をシンポジウム開催・各学会の防災関連委員会等の紹介事業とする。

特定非営利活動法人	安全工学会		日本社会学会
特定非営利活動法人	横断型基幹科学技術研究団体連合	一般社団法人	日本森林学会
環境システム計測制御学会		公益社団法人	日本地震学会
公益社団法人	空気調和・衛生工学会	公益社団法人	日本地震工学会
公益社団法人	計測自動制御学会	公益社団法人	日本地すべり学会
公益社団法人	こども環境学会		日本自治体危機管理学会
公益社団法人	砂防学会	一般社団法人	日本集団災害医学会
公益社団法人	石油学会	公益社団法人	日本造園学会
一般社団法人	ダム工学会		日本第四紀学会
公益社団法人	地盤工学会		日本地域経済学会
公益社団法人	地域安全学会	公益社団法人	日本地球惑星科学連合
一般社団法人	地理情報システム学会		日本地形学連合
公益社団法人	土木学会	一般社団法人	日本地質学会
一般社団法人	日本応用地質学会		日本地図学会
	日本海洋学会	公益社団法人	日本地理学会
公益社団法人	日本火災学会	公益社団法人	日本都市計画学会
	日本火山学会	公益社団法人	日本水環境学会
一般社団法人	日本風工学会	公益社団法人	日本水環境学会
	日本活断層学会	一般社団法人	日本リモートセンシング学会
一般社団法人	日本看護系学会協議会		日本緑化工学会
一般社団法人	日本機械学会	一般社団法人	日本ロボット学会
公益社団法人	日本気象学会	公益社団法人	農業農村工学会
	日本救急医学会	一般社団法人	廃棄物資源循環学会
一般社団法人	日本計画行政学会		
一般社団法人	日本建築学会		
一般社団法人	日本原子力学会		
	日本公衆衛生学会		
	日本古生物学会		
公益社団法人	日本コンクリート工学会		
	日本災害看護学会		
	日本災害情報学会		
	日本災害復興学会		
	日本自然災害学会		

仙台で見る、聞く、体験する

防災3イベント同時開催!



IDRC 2017 in SENDAI

世界防災フォーラム／防災ダボ会議@仙台 2017

11/25(土)~28(火)

国内外の多様な関係者(産・官・学・民など)が集い、防災の具体的解決策創出のための議論や連携強化

主催：世界防災フォーラム実行委員会
共催：東北大学、仙台市、GRFDavos、
科学技術振興機構(JST)
対象：国内外の専門家ほか一般
入場料：有料(一部無料)
お問合せ：世界防災フォーラム 運営事務局
(日本コンベンションサービス
株式会社 東北支社内)
TEL.022-224-2104

一部
無料
専門家
一般
日英
通訳
あり

<http://www.worldbosaiforum.com>

世界防災フォーラム

検索

ぼうさい こくたい

防災推進国民大会 2017

「大規模災害に備える ～みんなの連携が力になる防災～」

11/26(日)~27(月)

- ①地域における連携を深める
 - ②防災について学ぶ
 - ③誰もが参加する防災
- の3つのテーマに沿ったセッション・ブースの展示

主催：防災推進国民大会実行委員会
(内閣府(防災担当)、防災推進国民会議、
防災推進協議会)
対象：広く一般
入場料：無料
お問合せ：防災推進国民大会2017運営事務局
(株式会社フォンテック内)
TEL.03-5545-9191

無料
一般

<http://bosai-kokutai.jp/>

ぼうさいこくたい

検索

2017 防災産業展 in 仙台

11/26(日)~27(月)

防災技術・製品に関する展示など、産官学が連携して防災に関する最新の情報を発信

主催：日刊工業新聞社
共催：内閣府(防災担当)、宮城県、仙台市
対象：一般、企業
入場料：無料
お問合せ：日刊工業新聞社
業務局イベント事業部
TEL.03-5644-7221

無料
一般
企業

<http://biz.nikkan.co.jp/eve/tohoku-bousai/>

防災産業展 仙台

検索



仙台から産官学民の防災知見を発信!

災害に対する備えは万全ですか?防災について楽しく学べるワークショップ。防災に役立つ最新グッズや設備の展示。有識者による講演やディスカッションなど。お子様から大人まで楽しめる、防災のスペシャルイベントが仙台に集結。ご家族や防災の専門家まで幅広いみなさまのご来場をお待ちしています!

11/25(土)	26(日)	27(月)	28(火)
世界防災フォーラム			
	ぼうさいこくたい		
	防災産業展		



第1回防災推進国民大会より



会場:

仙台国際センター

《アクセス》地下鉄東西線・国際センター駅より徒歩1分

世界防災フォーラム

会場：仙台国際センター会議棟

	11月25日(土)	11月26日(日)	11月27日(月)	11月28日(火)
AM		オープニング		会議セッション・展示・ポスター発表 スタディツアー
			会議セッション・展示・ポスター発表	クロージング
PM	前日祭	スタディツアー	スタディツアー	エクスカーショ ン 〔1泊2日〕

■前日祭[無料・一般公開]

岩手・宮城・福島の若い世代による防災活動紹介の後、被災された方々の心よりどころになった地域芸能・音楽の舞台をお届けします。先進的防災で知られる高知県黒潮町の大西勝也町長も登壇。サイエンスアゴラ(東京)と連携した SENDAI BOSAI 文化祭。※要事前予約 9月頃募集開始予定(前日祭お問い合わせ：東北大学災害科学国際研究所 電話 022-752-2049)

■ミニプレゼンテーション・展示・ポスター発表[有料登録者対象]

自治体・企業・NPOによる防災活動や学術研究などを発表します。
ミニプレゼンテーションはオープンスペースで発表12分。

■会議セッション[有料登録者対象／一部無料・一般公開]

「アジアの災害」(東北大学災害科学国際研究所)、「より良い復興の実践的取組等」(仙台市)、「持続可能な開発と防災への事前投資」(JICA)、「産業技術の自然災害への準備と対応」(国際赤十字)、「災害リスク軽減のための地球観測」(GP-STAR(国際機関))、「防災の主流化」(パシフィックコンサルタンツ株式会社)、他多数。大小さまざまなセッションを行い、最先端の防災を議論します。

■スタディツアー／エクスカーショ
ン[有料登録者対象]

海外からの誘客を促進し、復興の取り組みと仙台・東北の魅力を発信するため、仙台市が被災4県(青森・岩手・宮城・福島)と連携して実施します。

ぼうさいこくたい

会場：仙台国際センター会議棟・展示棟・せんだい青葉山交流広場

会 議 棟

11月26日(日)

■大ホール／2F(1,000席) 同時通訳有
＜世界防災フォーラム・防災推進国民大会共通＞
10:00～10:30 オープニング
10:30～12:00 ハイレベルパネルディスカッション

■橋／2F(288席)
12:30～14:00 あの時地区防災計画があれば… 主催：内閣府
14:15～15:45 リスクガバナンス ～大規模災害を乗り切る～
主催：内閣府
16:00～17:30 ボランティアをやってみよう 主催：JVOAD

■萩／2F(225席) 同時通訳有
14:30～16:00 東北スペシャルセッション ～Build Back Better～
主催：東北大学

■桜1／2F(200席)
11:30～13:00 衛星情報・地理情報と防災イノベーション
主催：防災学術連携体・日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会
13:00～15:00 衛星情報・地理情報を防災に生かそう
主催：防災学術連携体・日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会
15:15～17:00 大規模災害に備える 主催：日本消防協会

■桜2／2F(120席)
12:30～14:00 保険・共済をはじめとした個人・企業の備え
主催：内閣府
14:15～15:45 学校防災教育と地域防災を考える
主催：日本損害保険協会
16:00～17:30 防災教育の過去、現在、未来
主催：防災科学研究所、人と防災未来センター、防災教育普及協会

11月27日(月)

■小会議室4／2F(36席)
13:00～15:00 なでしこ危機管理スペシャルアウェアネスチーム
～てこの原理を活用した救出活動方法の実演と体験トレーニング～
主催：危機管理教育&演習センター

■大ホール(1,000席)
クロージング 主催：内閣府
14:30～15:30 セッションのまとめ
15:30～16:00 次回大会に向けて

■橋(288席)
10:00～12:00 会社も安心・地域も安心
今からでも間に合う企業のBCP策定と地域との連携(仮)
主催：MS&ADインシュアランス グループ
ホールディングス株式会社
12:00～14:00 企業が参加する防災 主催：日本防災産業会議

展 示 棟

11月26日(日)

■会議室3(109席)
12:30～14:00 備蓄リレー 主催：TEAM防災ジャパン
14:15～15:45 避難所は助け合いの場
～避難所で元気に過ごす～ 主催：内閣府
ジェンダーと多様な主体による地域の防災
主催：内閣府
16:00～17:30

11月27日(月)

■会議室4(109席)
10:00～12:00 親子で考え、取り組む防災・減災について(仮)
主催：日本生活協同組合連合会
12:00～13:30 震災の記憶を伝え、災害を防ぐための
大学生と地域の連携(仮)
主催：東北大学 課外・ボランティア活動支援センター
13:30～15:00 東日本大震災における市民セクターが
果たした役割とこれからの展開
主催：東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)
15:00～17:00 特定非営利活動法人事業継続推進機構
事業継続普及セミナー
～内閣府 事業継続ガイドライン(第三版)
及び解説書について～
主催：危機管理対策機構

■会議室3(109席)
12:00～14:00 地震研究最前線、いま何が分かって
何が伝えられるか、まだ何が分かっていないのか
主催：日本地震学会

■会議室4(109席)
10:00～12:00 3.11東日本大震災からの教訓
～復合災害における震災復興5年間の挑戦～(仮)
主催：うつくしまふくしま未来支援センター
12:00～14:00 すべての福祉施設が事業継続計画(BCP)作成を!
主催：福祉防災コミュニティ協会

防 災 産 業 展

会期：11月26日(日)27日(月)10:00～17:00 会場：仙台国際センター展示棟・せんだい青葉山交流広場

■出展内容(予定)

- 地震対策(緊急地震速報システム、耐震技術 など)
- 火災対策(火災報知機、消火器、消火システム など)
- 津波・水害対策(止水板、ポンプ、防水シャッター、観測・予測システム、洪水対策 など)
- 土砂災害対策(土砂・落石探知システム、土のう、GPS、GIS など)
- 雷害対策(避雷器、雷防護関連製品、コンピューターバックアップシステム など)
- 突風・竜巻対策(気象監視技術、解析システム など)
- 事業継続計画(BCP策定支援)
- 避難所支援(仮設テント、災害用トイレ など)
- 医療介護支援(緊急搬送システム など)
- 総合防災システム(ライフライン復旧・確保、ハザードマップ、防災コンサルタント など)
- 帰宅困難者対策(浄水器、造水機、帰宅支援ツール、簡易トイレ、備蓄物資、非常食 など)
- 車輛および関連システム
(充電システム、ビッグデータ、交通情報サービス、AI・ICT関連技術、ドローン など)



防災に関連する企業・団体による展示・実演をご覧ください。
出展者情報等の詳細は随時ホームページにて公開予定です。
9月下旬より来場登録開始予定

防災産業展に関するお問い合わせはこちら
日刊工業新聞社 業務局 イベント事業部
TEL.03-5644-7221

出展内容は予告なく変更になる場合があります。

第2回 防災推進国民大会 団体別セッション

日本学術会議公開シンポジウム / 第4回防災学術連携シンポジウム

日時: 平成29年11月26日(日) 11時30分～13時

会場: 仙台国際センター 会議棟2階 桜1(200席)

主催: 日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会、防災学術連携体
協力: JAXA、国土地理院

参加費: 無 料(一般の方は申し込み不要、入場自由)

日本学術会議・防災学術連携体関係者(加盟学会)は以下URLより参加申込をお願いします。

<https://ws.formzu.net/fgen/S88109262/>

発表資料は防災学術連携体ホームページに掲載 <http://janet-dr.com/>

趣旨

人工衛星は、昼夜を問わず、地球に関する膨大なデータを取得し続けている。人工衛星によるデータは精度を高めつつあり、防災・減災、災害復興の幅広い分野に活用され始めている。さらに、リアルタイムでの情報提供につながる超小型衛星によるオンデマンド観測にも期待が集まっている。また、高解像度の人工衛星データ、航空写真、地上での観測、災害復旧状況といった災害に関する様々な時空間的情報を地理情報システム上に重ね合わせて、ハザードマップなどの防災・減災に資する情報や、災害現場の避難、救援、復旧に役立つ情報を迅速に提供することが可能となってきた。本シンポジウムでは、日本学術会議 地球惑星科学委員会の支援のもと、地球惑星科学連合、地理情報システム学会、日本リモートセンシング学会から、衛星情報・地理情報に関する現状と将来計画を紹介するとともに、防災学術連携体の各学会から、衛星情報・地理情報の利用事例を発表する。衛星情報・地理情報のイノベティブな活用方法、未知の分野とのコラボレーションを模索するとともに、防災に関わる学会ネットワークである防災学術連携体に期待される役割についても議論する。

プログラム

- 司会 防災学術連携体 事務局長 塚田 幸広
- 11:35 挨拶 防災学術連携体 代表幹事 廣瀬 典昭
- 趣旨説明 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会 委員長 和田 章
- 11:40 日本リモートセンシング学会:「防災分野への衛星情報利用の最前線」 伊東明彦
- 11:50 地理情報システム学会:「地理情報と防災(仮)」 調整中
- 12:00 日本地図学会:「位置情報の高精度化が防災地図にもたらすもの」 遠藤 宏之(GIS NEXT編集部)
- 12:10 日本気象学会:「気象災害と衛星観測」 早坂 忠裕(東北大学大学院理学研究科)
- 12:20 日本地球惑星科学連合:「火山災害における衛星観測の活用」 山里 平(気象研究所火山研究部長)
- 12:30 日本地すべり学会:「衛星画像・高精度地形情報を用いたランドスライド発生危険地域評価の検討」 檜垣大助(弘前大学)
- 12:40 日本集団災害医学会:「災害医療現場におけるSIP4Dの利活用とその展望」 調整中
- 12:50 質疑応答
- 12:55 閉会 防災学術連携体 副代表幹事 依田 照彦

* 同テーマの連携セッション(13時-15時、同会場)を開催予定

ポスターセッション

平成29年11月26日(日)～27日(月) 10:00～17:00
仙台国際センター会議棟2階(予定)※シンポジウムと同じ棟

- 砂防学会: 「衛星情報を利用した土砂災害警戒領域の推定」
- 地盤工学会: 「地理情報を活用した地震時斜面崩壊危険度の評価」
- 日本応用地質学会: 「高精度地形データで熊本地震による地表面変位を計る」, 「沖積平野の微地形解析により想定される災害」
- 日本計画行政学会: 「地域社会との連携による災害情報システムの開発と運用」
- 日本災害看護学会: 「避難生活環境に関する宇宙・地理空間情報技術利活用」
- 日本地震工学会: 「リモートセンシングによる災害把握-近年の地震・津波への適用-」
- 日本第四紀学会: 「赤色立体地図からよみとる日本の地形の特徴と災害」
- 日本地理学会: 「高精細地形情報を用いた津波痕跡の発見と保存:三陸海岸を例に」

第2回 防災推進国民大会 大会主催者 連携セッション 日本学術会議公開シンポジウム / 第4回防災学術連携シンポジウム 大規模災害に備える ～みんなの連携が力になる防災～ 小テーマ：防災について学ぶ 「学術研究の成果を防災に生かす」

日 時：平成 29年 11月 26日(日) 13時～15時

会 場：仙台国際センター 会議棟 2階 桜 1 (200席)

主 催：日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会、防災学術連携体

共 催：国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA)

国土交通省 国土地理院 【大会主催者(内閣府 防災担当)】

協 力：徳島県

参加費：無 料(一般の方は申し込み不要、入場自由)

日本学術会議・防災学術連携体関係者(加盟学会)は以下URLより参加申込をお願いします。

<https://ws.formzu.net/fgen/S88109262/>

発表資料は防災学術連携体ホームページに掲載 <http://janet-dr.com/>

趣 旨

人工衛星は、昼夜を問わず、地球に関する膨大なデータを取得し続けている。人工衛星によるデータは精度を高めつつあり、防災・減災、災害復興の幅広い分野に活用され始めている。さらに、リアルタイムでの情報提供につながる超小型衛星によるオンデマンド観測にも期待が集まっている。また、高解像度の人工衛星データ、航空写真、地上での観測、災害復旧状況といった災害に関する様々な時空間的情報を地理情報システム上に重ね合わせて、ハザードマップなどの防災・減災に資する情報や、災害現場の避難、救援、復旧に役立つ情報を迅速に提供することが可能となってきた。本セッションでは、日本学術会議 地球惑星科学委員会の支援のもと、衛星情報の防災分野での利用事例やイノベティブな活用方法を紹介するとともに、地方自治体との連携の可能性、今後の未知の分野とのコラボレーションの可能性を模索したい。

プログラム

- | | | |
|--|------|---------------------------------------|
| 司 会 | 田村和夫 | 日本学術会議連携会員、千葉工業大学教授 |
| 13:05 挨拶 | 大西 隆 | 日本学術会議会長、豊橋技術科学大学学長 |
| 趣旨説明 | 米田雅子 | 日本学術会議会員、防災学術連携体事務局長、慶應義塾大学特任教授 |
| 13:10 講演「衛星情報を防災に生かそう(仮)」 | 館 和夫 | 宇宙航空研究開発機構 宇宙利用統括 |
| 13:30 講演「地理情報を防災に生かそう(仮)」 | 村上広史 | 国土地理院長 |
| 13:50 ディスカッション「衛星情報・地理情報を防災に生かそう」 | | |
| ※徳島県、日本地球惑星科学連合、地理情報システム学会、日本リモートセンシング学会による
ショートプレゼンテーション(5分を予定)後、ディスカッションを開始する | | |
| コーディネータ | 藤井良一 | 情報・システム研究機構長、日本学術会議会員・地球惑星科学委員会副委員長 |
| パネリスト | 館 和夫 | 宇宙航空研究開発機構 宇宙利用統括 |
| パネリスト | 村上広史 | 国土地理院長 |
| パネリスト | 福井廣祐 | 徳島県政策監 |
| パネリスト | 高橋幸弘 | 日本地球惑星科学連合 宇宙惑星科学セクション プレジデント、北海道大学教授 |
| パネリスト | 玉川英則 | 地理情報システム学会会長、首都大学東京 教授 |
| パネリスト | 島村秀樹 | 日本リモートセンシング学会副会長、(株)パスコ 中央事業部 取締役 |
| 14:50 閉 会 | | |

*同じテーマの学会事例発表の公開シンポジウム(11時30分から13時、同会場)
ポスターセッション(10時00分から17時、同会場)を開催予定